

千葉県感染症発生動向調査情報

2014年 第52週 (12/22-12/28) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		52週	51週	50週	49週
小児科		16	18	18	18
眼科		4	4	5	5
インフルエンザ*		25	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数
「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県				千葉県	
		注意報	12/22-12/28 52週	12/15-12/21 51週	12/8-12/14 50週		12/1-12/7 49週
小児科	RSウイルス感染症		6	16	19	8	158
	咽頭結膜熱		3	0	0	2	75
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		41	34	52	62	400
	感染性胃腸炎		166	280	256	251	1,580
	水痘		4	17	18	14	168
	手足口病		7	4	16	18	52
	伝染性紅斑		2	8	7	1	74
	突発性発しん		7	12	7	11	42
	百日咳		0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ		0	2	1	4	5
	流行性耳下腺炎		1	1	3	3	56
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○★★	777	566	357	223	4,281
			31.08	20.21	12.75	7.96	20.29
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	4	3	6	19
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	1	0	0	2
	マイコプラズマ肺炎		0	1	1	0	3
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		1	0	1	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(17件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査	結核	女性	70歳代	病原体の検出
結核	男性	50歳代	IGRA検査	結核	女性	70歳代	病原体等の検出等
結核	男性	50歳代	IGRA検査	細菌性赤痢	女性	70歳代	病原体の検出
結核	男性	60歳代	病原体の検出	アメーバ赤痢	男性	40歳代	病原体の検出
結核	男性	80歳代	IGRA検査等	アメーバ赤痢	男性	70歳代	病原体の検出
結核	男性	90歳代	病原体の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	40歳代	病原体抗体の検出
結核	女性	20歳代	IGRA検査	水痘(入院例)	男性	10歳未満	IgM抗体の検出等
結核	女性	20歳代	IGRA検査	水痘(入院例)	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	女性	30歳代	胸水ADA値の上昇	-	-	-	-

*結核11件(261)、細菌性赤痢1件(5)、アメーバ赤痢2件(5)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(12)、水痘入院例2件(3)の報告があった。

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第52週のコメント

<インフルエンザ>前週より更に増加し31.08となり、流行発生警報開始基準値を上回った。過去10年の同時期と比べると、2009年のパンデミックも上回り最多となった。

トピック

<インフルエンザ>

2014年の全国レベルの第51週現在は過去7年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除いて例年の2倍から10倍以上で非常に多く最多となっています。都道府県別では、埼玉県、北海道、岩手県の順に多く報告されています。千葉県は、全国レベルより多くなっています。千葉市の第52週現在は前週より更に増加し31.08となり、流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回り、過去10年の同時期と比べると平均+3SDを大きく上回り、2009年のパンデミックも上回り最多で大変多い状況となっています。区別の発生状況では、中央区(40.4/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く、1年代あたりでは8歳で最も多く報告されました。また、中央区の他、緑区(37.4/定点)及び若葉区(37.0/定点)で流行警報開始基準値を上回っており、その他の3区では流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回っています。今シーズンである2014年第36週から第52週現在の累積報告数(n=2235)によると、性別では男性が49.7%(1111名)、女性が50.3%(1124名)で、年齢階級別の1年代あたりでは8歳(9.0%:202名)、7歳(8.9%:200名)、9歳(7.6%:170名)の順に多くなっており、全体に占める20歳未満の割合は83.6%(1869名)、10歳未満の割合は51.7%(1155名)となっています。

今シーズンの型別迅速診断結果の累積は、A型が86.6%で、A型が8割以上を占めています。流行シーズンであることから、感染防止の注意が必要です。

ワクチンは、接種してから効果が表れるまで2~3週間かかるとされていることから、早目の対策を心がけましょう。

予防として、家庭内のみならず、外出先においてもこまめに手を洗うなど基本的な予防の励行のほか、十分な栄養と睡眠をとるなど普段から免疫力を高めておくことも大事です。発症した場合は、周囲へ感染を広げないよう、無理に学校や職場へ出ることを控え、早めに受診してください。また、マスクを着用する等の咳エチケットを守ることが重要です。

<咳エチケット>

- 咳・くしゃみが出たら、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。マスクをもっていない場合は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう。
- 鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨てましょう。
- 咳をしている人にマスクの着用をお願いしましょう。

